

スマート農業技術を活用した大麦の省力栽培体系の実証

中央普及支援センター

中央普及支援センターでは、農機メーカーや全農いしかわ、JA はくい等と連携して、ロボットトラクターや人工衛星データなどのスマート農業技術を活用して大麦生産を行い、播種にかかる労働力の低減や投下肥料の最適化を図り、生産性や収益性の向上を目指す実証を行っています。

昨年10月に行われた播種作業の実証では、作業員2人が1台のトラクターで播種作業を行う慣行体系に対し、ロボットトラクターを活用すると同作業人数・同作業時間で播種面積を倍増できることが明らかになりました。

実証経営体からは、「労働力が不足する中、スマート農業にとっても期待している」、「ボタン一つでトラクターが操作できる。若い人が農業に興味を持つきっかけになってほしい」と期待する声が聞かれています。

今後は、人工衛星データなどを基に施肥量を最適化する「可変施肥」や収量コンバインによる「収量・品質データの見える化」にも取り組むこととしており、本実証を通じて、スマート農業技術を活用した大麦の栽培体系の確立を目指しています。



ロボットトラクターを活用した播種の様子

問い合わせ先：農林総合研究センター農業試験場

中央普及支援センター（076-257-9150）